

2016年6月2日

関西福祉大学
看護学部長 津島ひろ江先生
保護者の皆様

平成28年熊本地震におけるマスクの支援のお礼

このたびは、熊本地震におきまして、貴大学及び保護者様よりマスクのご支援をいただき誠にありがとうございました。

4月14日の余震、4月16日の本震で、ライフラインも寸断し建物の倒壊など多くの被害を受けました。地震から1ヵ月半が経過しておりますが、避難所生活を強いられている方々や地震の恐怖で夜だけ車で眠るといった方もいらっしゃいますし、まだ、断水している地域もあります。

しかし、全国からのご支援をいただき、少しずつ通常の生活を取り戻しつつあります。

ご支援いただいたSサイズのマスク9箱は、化学療法や骨髄移植・肝臓移植を行う子どもたち、心疾患などの病気で免疫力が低下している子どもたちなど感染予防が大切な子どもたちの手元に届くように配布させていただきました。そのような子どもたちが入院や外来治療を受けている熊本大学附属病院（小児病棟・小児外科・移植病棟・小児外来）、熊本市民病院、国立病院機構熊本医療センター、熊本赤十字病院（子ども病棟・PICU・小児外来）に届けました。それぞれの病院の方々には、たいへん感謝されました。

本当にありがとうございました。

配布先の様子とスタッフの方々の写真を、お礼を兼ねまして送らせていただきます。

下記のメモをマスクの箱に貼付させていただきました

このマスクは、
兵庫県にある関西福祉大学看護学部
及び
同大学保護者の方々より
熊本地震の支援としていただきました。

●熊本大学医学部附属病院

西病棟 8階 (小児病棟)



看護師長と看護師さん
「たくさんのマスクをありがとうございます。大切に使用させていただきます。」



早速、ご支援いただいたマスクをつけた入院中の子どもさん

「化学療法、骨髄移植、その他免疫機能が低下した子どもたちに届けます。」

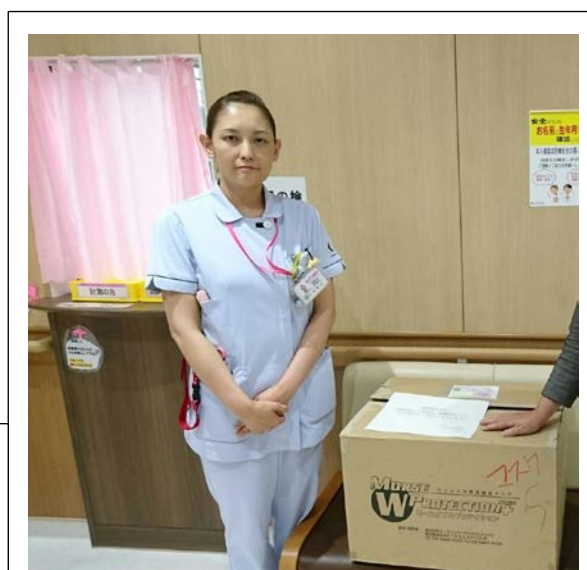
東病棟 8階 (小児科・小児外科・移植外科)



肝臓移植をする子どもたちに渡します。

小児科外来の看護師さん
「外来受診するマスクの必要な子どもたちに渡します。ありがとうございました」

小児科外来



●国立病院機構 熊本医療センター



看護部長と副看護部長

「たくさんのマスクをありがとうございました。化学療法や骨髄移植の治療をする子どもたちや外来を受診する子どもたちに渡します」

「このご支援を、病院の Facebook にアップしました」

●熊本赤十字病院



子ども病棟の係長さん

「たくさんのマスクをありがとうございました。子ども病棟や PICU、外来の子どもたち、南阿蘇村で母子センターの支援も行っているのでもそこにも持っていきます」

●熊本市立熊本市民病院



小児専門看護師さん

「マスクをありがとうございました。心疾患の子どもたちに届けます。現在、地震の影響で、病院は、3棟あるうちの2棟が使用できず、入院診療ができない状態で、外来のみの診療となっていますが、病棟再開に向けて頑張っています。」



市民病院は、建て替えの計画となりました。診療も難しい状態でしたが、多くのご支援を受けて、現在、外来診療を行えています。ご支援をありがとうございます。

以上